

演題発表プログラム

第1部

清掃の効率化を図る

清掃を効率化し職員の心身負担の軽減を目指す

- 1 医療法人 杏園会 介護老人保健施設 かなやま 介護士
令和3年1月よりデイルーム内の清掃を介護職員で担う事となったことで残業・心身の負担等様々な課題が挙がった。効率化し対策実施した結果56.5分かかっていた清掃が30分に短縮し付随した効果も得られたため報告する。

稼働率目指せ95%どんどんショート入れちゃって！！

ショートステイ受け入れ時間の短縮

- 2 医療法人 杏園会 介護老人保健施設 あんず 看護師
ショートステイの受け入れに時間がかかり件数が増えると他の業務に支障が出ていた為、業務改善に取り組み1件あたり20分かかっていた受け入れ時間が取り組後は10分に短縮でき業務のスリム化にも繋がった。受け入れが重なっても余裕を持って対応できるようになった。

自信を持って業務を行う為に

ヒューマンエラー防止への取組み

- 3 医療法人 豊和会 老人保健施設 かずえの郷 介護支援専門員
老健に起こりうるヒューマンエラーについてマニュアル、職員間のコミュニケーション・情報共有の視点から与薬業務の事例を通して見直し、改善を図った。それにより各職員が自信を持って働く糸口を得る事ができた。

職員が事故に気付かなかったボクサー骨折の事例

事故予防には有機的な他職種連携と協働が必要

- 4 医療法人 清水会 豊明老人保健施設 医師
脳出血後遺症で左半身麻痺の67歳女性例について介護中職員は事故に気付かなかったが、「左手背が少し腫れていた」ことから線上左ボクサー骨折（第5中手骨骨折）を診断。再発防止上有効な多職種連携・協働の在り方を考えたので報告する。

第2部

アルツハイマー型認知症利用者への食支援

多職種協働によるアプローチにより栄養改善がみられた症例

- 5 医療法人 財団善常会 老人保健施設 シルピス大磯 管理栄養士
覚醒不良による誤嚥リスク、注意障害による窒息リスクがあるアルツハイマー型認知症高齢者に対し、管理栄養士はじめとした多職種協働で食支援を行ない、栄養改善がみられた症例報告である。

夜間の尿失禁による、衣類汚染回数の削減

- 6 医療法人 杏園会 介護老人保健施設 トリトン 介護福祉士
夜間の尿失禁による衣類汚染が多く見られており利用者様の不快感や衣類交換等の為他利用者様への対応の遅れに繋がる等の問題が生じていた為夜間の尿失禁による衣類汚染の削減に取り組む事とした。

自然排便を目指して

身近にある食品で実践

- 7 社会福祉法人 一誠福祉会 老人保健施設 ベルビューハイツ 介護職
法人の理念である「ノーマライゼーション」の実践を目指し、どんな環境下でも今やれることを・・・その一例として在宅復帰に思いを寄せた「自然排泄」の重要性を導き、僅かでもご家族様の介護負担軽減の一助となれば。このような想いを演題に託します。

個別レクリエーションの提供

意欲の向上と生活の変化が生じた症例

- 8 医療法人 慈照会 老人保健施設 ハートフルライフ西城 介護
日々の業務において、介護士として利用者様に施設生活を満足していただけるようにレクリエーションやActivityの提供などを行っている。今回、Activityの提供を行うことで利用者様にどのような変化がみられるか興味を持ち評価表を用いて調査を行った。

口腔機能向上サービスの取り組み

- 9 社会医療法人 明陽会 老人保健施設 明陽苑 看護師
高齢化社会となり人生100年時代と言われる近年、口腔ケアを続けて、最期まで口から食べることが望ましいと言われている。口腔機能向上サービスを実施し、利用者の生活の質の向上を目指した取り組みを行った。

第3部

10 水分増加による周知症状、尿路感染症の改善

もう一杯！が変えた

医療法人 良斉会 介護老人保健施設 ヴィラとびしま

管理栄養士

高齢者の水分摂取の有意差は広く知られている。そこで水分管理が必要と思われる利用者様をピックアップし、工夫により水分摂取量の増加を図った。取り組みによる経過と周知症状、尿路感染の改善等の結果を報告する。

11 みんなに見える入浴介助加算Ⅱ

「入浴支援で何やってるの？」にキーホルダーで応えます

医療法人財団 愛泉会 老人保健施設 愛泉館

介護福祉士

入浴介助加算ⅠとⅡの違いについて説明することや理解していただくことに苦労しました。個別入浴計画をオープンにすることで、家族への支援内容の理解や情報共有、ケアを実行する職員の意識付けや関わり方の改善を工夫しました。

感染対策におけるターミナルケアの取り組み

笑顔で過ごした夫婦の時間

12 医療法人 偕行会 老人保健施設 かいこう

看護師

新型コロナウイルスの感染対策下で、別フロアで生活していた夫婦の夫がターミナル期となった。夫婦にとって施設でできる最善の生活を考え、家族皆が笑顔で最期を送る事が出来た事例を報告する。

新型コロナウイルス感染症クラスター経験を振り返って

職員意識の変化から学んだこと

13 医療法人 豊和会 介護老人保健施設 さなげ

介護福祉士

令和3年1月新型コロナウイルス感染症の発症後、クラスターとなった。コロナウイルスと戦った現場職員がその経験の中で得た意識の変化を、アンケートを通し明確化した。今後の業務に活かせる結果を得た。

第4部

通所リハビリ利用者からボランティアスタッフへ

生活行為向上リハビリによる通所リハビリ卒業への道

14 医療法人 並木会 介護老人保健施設 メディコ阿久比

理学療法士

予防生活行為向上リハビリテーション実施加算を算定し、6か月後に通所リハビリ卒業後、ボランティアスタッフとして通所リハビリで活動することが可能であった症例について報告する。

15 脳梗塞再発後姿勢の崩れ改善に向けて

本人の「気づき」に着目して

医療法人 幸会 老人保健施設 みず里

理学療法士

脳梗塞再発後、車椅子座位での傾きが大きくなり、ADL低下を認めた利用者がいた。自分の身体に注意を向けることで傾きに気づき、自発的に姿勢を修正することでADLの向上に繋がった症例の取り組みを発表する。

「冗談は、よしこさん」

冗談では終わらなかった在宅復帰

16 医療法人 聖俊会 豊川老人保健施設 ケアリゾートオリーブ

介護福祉士

在宅復帰困難と思われた利用者へ、楽しみづくりを出発点として、心身機能向上、在宅復帰と繋げる事ができた。多職種連携のアプローチの重要性や職員が前向きに関われた事例を報告する。

利用者と共に実践する地域貢献活動

地域貢献活動を利用者の生きがいに

17 医療法人 並木会 介護老人保健施設 メディコ阿久比

作業療法士

地域貢献活動を通所リハビリ利用者と共に実施することで、利用者の生きがい活動として取り組むことができた。利用者の住み慣れた地域での役割作り、地域に開かれた施設を目指した取り組みについて報告する。
